



# 2012 年度 事業報告書 会計報告書



Bangladesh School Health Project (Project Ritor)  
 環境美化の啓発劇 (撮影 森田隆)

公益社団法人  
日本キリスト教海外医療協力会  
Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service  
(JOCS)

## 目次

1. 今年度の歩み .....	1
2. 海外諸活動 .....	4
2-1 海外派遣 .....	4
(1) バングラデシュ・ワーカー 宮川眞一 (医師) .....	4
(2) バングラデシュ・ワーカー 山内章子 (理学療法士) .....	5
(3) バングラデシュ・ワーカー 岩本直美 (看護師) .....	7
(4) バングラデシュ短期ワーカー 乾眞理子 (医師) .....	8
(5) バングラデシュ短期ワーカー 石本馨 (作業療法士、社会福祉士) .....	9
(6) タンザニア・シニアワーカー 倉辻忠俊 (医師) .....	10
(7) タンザニア短期ワーカー 宮尾陽一 (医師) .....	11
(8) パキスタン・ワーカー 青木盛 (医師) .....	12
2-2 研修生・奨学金支援 .....	13
2-3 協働プロジェクト (プロジェクト・りとる) .....	21
3. 国内諸活動 .....	22
3-1 国内活動全般 .....	22
3-2 ワーカー育成プログラム .....	24
3-3 東日本大震災被災者支援 .....	27
3-4 広報 .....	29
3-5 募金 .....	31
3-6 使用済み切手運動 .....	32
3-7 JOCS 関西バザー .....	32
3-8 講師派遣プログラム .....	33
3-9 事務局見学受入 .....	33
3-10 50周年記念事業 .....	33
3-11 ネットワーク活動 .....	34
4. 運営会議 .....	35
4-1 第51回定時社員総会 .....	35
4-2 理事会 .....	35
4-3 運営協議会 .....	36
4-4 委員会 .....	36
4-5 海外保健医療協力者会議 (ネクステ会議) .....	40
4-6 今後5年間の方向性策定 .....	41
4-7 評価 .....	41
5. 事務局 .....	42
6. 社員会員・一般会員の現状報告 .....	43
7. 2012年度の主な動き .....	43
8. 会計報告 .....	46
貸借対照表 .....	46
貸借対照表内訳表 .....	47
正味財産増減計算書 .....	48
正味財産増減計算書内訳表 .....	50
財務諸表に対する注記 .....	52
附属明細書 .....	54
財産目録 .....	55
公益目的事業会計 収支計算書 .....	57
収益事業等会計 収支計算書 .....	60
法人会計 収支計算書 .....	61
収支計算書総括表 .....	63
収支計算書に対する注記 .....	64
監査報告書 .....	65
付録 2012年度出版物に掲載された記事の一部 .....	67

## 1. 今年度の歩み

＜常務理事 畑野研太郎＞

今年度も、会員<sup>1</sup>の皆様、支援者の皆様、ボランティアの皆様のあたたかいご支援・ご協力・祈りの心に支えられ、アジア・アフリカの人々と共に生きることを目指して活動を続けることが許されましたことを、心より感謝讃美申し上げます。

また、2011年3月の東日本大震災で被災された方々への支援も、皆様のご理解とご協力により、JOCSの海外での経験を活かした活動を展開できましたことに、厚くお礼申し上げます。

今年度は、約10年に一度開催している「海外保健医療協力者会議」を開催し、JOCSのこれまでの歩みを振り返り、JOCSの今日的な使命の再確認と、その使命を遂行するための方策について熱心な議論を重ねました。ここで提案されたさまざまな課題は、これから理事会の責任下でさらに深めてまいります。

これからも、活動地の人々と共に生きる私たちの活動を一層充実させていくよう、努力してまいります。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2012年度の特記すべき活動を以下に記します。

### (1) 海外諸活動

#### ① ワーカー派遣：

今年度は、5名の長期派遣ワーカーがそれぞれの任地で以下の働きを行った。

バングラデシュでは、宮川真一ワーカーが、チャンドラゴーナ・キリスト教病院にて、診療とスタッフの指導を行い、9月末に任期を終えて帰国した。重篤な患者に対する姿勢を見て現地スタッフの多くが感銘を受けていた。山内章子ワーカーは、バングラデシュ各地で理学療法技術者やフィールドワーカーの技術教育に取り組んだ。バングラデシュで知的ハンディをもつ人々のホームを運営するラルシュ・マイメンシン・コミュニティでは、岩本直美ワーカーの指導により、理事やスタッフに大きな成長がみられた。

タンザニアの倉辻忠俊シニアワーカーは、診療及び診療管理の指導によって小児医療の向上に貢献するとともに、現地の教会が運営する医療ネットワーク組織の強化と人材育成に取り組み、12月末に任期を終えて帰国した。

パキスタンの青木盛ワーカーは、自ら命の権利を主張することのできない、同時に命の危険にさらされている新生児の生命をまもる診療や助産師の教育を継続している。

また、短期ワーカーは3名派遣された。バングラデシュでは、乾眞理子ワーカーが、農村部の貧しい人々を治療する診療所で、資格はないが医師兼看護師の役割を果たしている

<sup>1</sup>会員：本報告書の中で特にことわりのない場合は、社員会員及び一般会員の皆様を指します。

## 1. 今年度の歩み

スタッフの指導を行った。また、作業療法士である石本馨ワーカーは、障がいをもつ子どもたちの特性にあわせた訓練方法を指導した。タンザニアでは、宮尾陽一ワーカーが、外科手術の指導を行った。

### ② 奨学金支援：

アジア・アフリカの保健医療従事者育成を目的とした奨学金は、新規受給者・継続者を合わせ、インド、インドネシア、ウガンダ、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、タンザニアの87名の研修を支援した。今年度は事務局よりタンザニアに奨学生を訪ね、JOCSの奨学金を受けて医師や看護師になった人々が、農村での地域医療に貢献している様子を確認することができた。

### ③ 協働プロジェクト(プロジェクト・りとる)(Project “LITTLE” = “Living together with the people”)

「プロジェクト・りとる」とは、アジア・アフリカの NGO と JOCS が協力してプロジェクトを立案し、現地 NGO が主体となって活動を進め、JOCS はそれに対する資金技術協力を行うという事業形態である。上記のワーカー派遣・奨学金支援に加えて、JOCS の活動の第三の柱として育ってきた。バングラデシュで、学校での保健教育の授業、保健教育担当教員のための講習会、思春期女子生徒に向けての授業、身体測定、健康診断などを行った。

## (2) 国内諸活動

今年度も、JOCS に連なる皆さまのご協力を得て、東北被災地での活動を継続することができた。釜石では心のケア活動及び訪問看護チームの派遣、仙台では「日本基督教団東北教区被災者支援センター」のスタッフの人件費サポートを継続した。さらに、福島県で新たな活動を開始した。いわき市仮設住宅集会所での健康相談活動、児童養護施設の子どもたちを放射能による健康被害からまもる活動を実施した。

国内でのイベントとしては、東北での「みんなで生きる」表紙写真展、チャリティー講演会、スタディツアーなどを行った。各地区 JOCS では、今年度もワーカー報告会やチャリティーコンサートなどを開催してくださった。

また、学校でのワークショップも開催校を増やし、日本と海外の子どもたちのつながりを深めることができた。

使用済み切手運動に関しては、書き損じはがきキャンペーンに多くの方のご協力をいただいた。

海外保健医療協力に関心をもつ方々のため実施しているプログラムは、感染症をテーマにした連続勉強会を開催し、好評であった。

3. 運営会議、事務局

第 51 回定時社員総会が 5 月に開催され、決算報告に加え、前理事任期満了による新理事の選任が決議された。

2012 年 12 月 29 日から 31 日まで、第 5 回海外保健医療協力者会議「通称:ネクステ (Next Step) 会議」を開催した。理事、監事、準備委員、ワーカー、職員がゲストとともに一堂に会し、JOCS の使命、国内活動、クリスチャニティ、保健医療協力活動に関して議論した。

今年度も、多くのボランティアの皆さまが JOCS の活動を支えてくださいました。私たちの活動に共感して様々な形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

## 2. 海外諸活動

### [2-1] 海外派遣

#### (1) バングラデシュ・ワーカー 宮川眞一（医師）

派遣先：CHC（Christian Hospital Chandraghona）

9月末に第二期の任期を終え、CHCでの活動を終了、帰国した。通常業務を継続しつつ、これまでに導入したシステム等が継続されるような環境整備・引き継ぎに重点をおいた。

##### 1) 病院・診療業務・医師看護教育

- ① メタボリック外来：現地医師が患者の糖尿病手帳を活用できるよう指導。徐々に外来患者を引き渡して行った。
- ② 病棟システム：入院症例の多い疾患についてクリニカルパス（入院診療計画書）の作成を試みたが、完成できなかった。糖尿病については、現地医師、病棟看護師も自信がつき当国標準以上のレベルで入院患者をケアできるようになった。
- ③ 救急業務・救急医療環境整備・教育：継続して複雑症例のコンサルテーションを受けた。救急処置用機器の有効活用を看護師が中心となるよう、機器のメンテナンス・救急薬剤の管理責任の所在をはっきりさせた。救急処置の実地教育は、ベッドサイドでその都度行った。
- ④ ペインクリニック：神経ブロック治療を継続したが、現地医師への技術移転は成功しなかった。
- ⑤ 看護教育：一部の若手看護師に心理的アプローチを含む「ケア」の姿勢は伝わったようである。
- ⑥ 精神保健領域：うつ病のバングラ版心理テスト活用をアピールした。3カ月の自殺企図者の原因リサーチは終了。現在分析中。
- ⑦ 上部消化管内視鏡検査：定期検査継続。患者対応マニュアル及びコンピューター情報管理を含めたマニュアルは手術室主要スタッフへ引き継がれた。しかし、現地医師への技術移転はできなかった。
- ⑧ 腹部エコー検査：指導により1名の内科系医師が使用できるようになったが、自立できるまでには至らなかった。



診療する宮川ワーカー

##### 2) 地域保健医療（Community Health Project：CHP）

直接関与はせず、情報収集に終始した。

## 3) 医療廃棄物問題

主要スタッフと「病院環境委員会」継続の打ち合わせを行なった。a) 病棟内分別、b) 感染性物質の処理徹底、c) システム履行、d) 焼却施設・周囲の環境は維持されている。

## 4) ツアー受け入れ

NGO・学校・個人の訪問を可能な限り受け入れた。

## 5) 帰国後報告会

2012年10月下旬から2013年3月末まで全国の学校、教会ほか98カ所で報告会を開催した。

## (2) バングラデシュ・ワーカー 山内章子 (理学療法士)

派遣先：マイメンシン テゼ共同体

2012年1月10日より第二期。活動の方法は以下4つに分類される。

## 1) 理学療法

## ①PCC (Protibondhi Community Centre) (マイメンシン県)

- ・火曜外来とムクタガチャ支部の木曜外来を行った。一期目より課題になっていた外来での評価表の導入と定着ができた。
- ・口唇口蓋裂の言語療法をスタッフと共に PCC 及びジナイガティ (地名) で行っているが、まだ定着には時間がかかる。
- ・女性クラブ (障がい女性のワークショップ) で理学療法を行い、機能の維持、改善に取り組んだ。

## ②Kailakuri Clinic (タンガイル県)

- ・月に一度外来のため訪問。

## ③Disabled Centre (ディナジプール県 Dhanjuri mission)

- ・2カ月に一度訪問し、障がい児寮の子どもたち、及び理学療法目的入所の子どもたちの評価、治療を行った。

## ④Butahara Mission (ラッシャヒ県)

- ・11月に訪問し、フィールドワーカーの引率により地域の障がい児・者宅を訪問し評価治療、家族指導を行った。

## ⑤L Arche Community (マイメンシン県)

- ・月に一度、理学療法の必要な児、メンバーの評価、治療を行い、スタッフに指導した。

\*理学療法の提供は定着している。一緒に働く人たちの技術も少しずつ向上している。



リハビリ訓練をする山内ワーカー

## 2. 海外諸活動

### 2) 教育

#### ①PCC

- ・理学療法技術者へのトレーニング（理学療法理論、実習）を行った。CP（Cerebral Palsy 脳性麻痺）デイケアでは、上述技術者とボランティアに子どもたちと成長を促す遊び方や教え方を指導した。また、デイケアのドナーへの報告書の作成方法を指導したが、3 ヶ月という期間を要しながらも、満足のいく報告書を作成することができなかった。
- ・PCC に関係するフィールドワーカー（障がい者グループのサポート、訪問などを主に行う）の理学療法基礎トレーニング（呼称：Basic Class）を半年にわたり、月に一度開催した。

#### ②Kailakuri Clinic

- ・月に一度の訪問の際に、担当スタッフへの技術指導を行った。他、PCC 開催の上記 Basic Class に参加させた。

#### ③Disabled Centre

- ・平均して 2 ヶ月に一度訪問し、ケースを通してスタッフ 2~3 名の技術指導を行った。
- ・9 月よりフィールドワーカーとして再雇用されたスタッフの訪問事業の指導を行った。

#### ④Butahara Mission

- ・月に一度 4~5 日マイメンシンにおいて、フィールドワーカーの理学療法理論、実習の指導を行った。他、フィールドに役立つ経験を PCC の活動を通して積ませた。

\*それぞれの教育トレーニングが閉鎖することなく継続できたことはよかった。

### 3) 女性障がい者へのエンパワメント

#### ①PCC

- ・女性クラブ（障がいを持つ女性たちの集まり）の女性たちに、日常の会話や講義、家庭訪問を通して、健康や女性性を大切にすること、女性であることに自信を持つことを学んでもらった。
- ・女性クラブの商品の品質改善にあたった。色合わせの方法、新しいデザインや商品の提供をした。また、青年海外協力隊員に刺繍やカーペットの技術指導をしてもらい、女性たち自身も自分たちの品質に自信がついて、この 1 年で格段に品質が向上した。
- ・女性クラブの商品の販売にも触手し、ウェブサイトの作成や宣伝を行った。

#### ②Butahara mission

- ・女性障がい者が集まれる場所やボランティアの模索を訪問の際に行った。

### 4) 管理のサポート

#### ①PCC



・PCC スタッフ間の問題、女性クラブとの関係の調整のため、後方サポートを行った。

### ②Disabled Centre

・3月に着任した責任者（神父）にスタッフの仕事の方法やセンターの仕事の方向性について、訪問の際にミーティングを持ち、スタッフがすべき業務の理解を訴えた。しかし、1月にまた責任者が変わってしまった。

### ③Butahara Mission

・責任者（神父）に障がいを持つ人のための仕事の重要性についてミーティングを持ったが、まだ理解には至っていない。

\*②、③各責任者の障がい児・者に対する理解を深めることが今のところ一番の課題で、業務内容の管理は山内が行っている。

## (3) バングラデシュ・ワーカー 岩本直美（看護師）

派遣先：テゼ共同体（ラルシュ マイメンシン・コミュニティ）

### 1) 理事及びアシスタントの養成

国内報告会活動のための岩本の長期不在は、理事及びアシスタントたちの良い成長の機会となった。理事長・アシスタントコーディネーター（個々のアシスタントの成長を支援する役割）及びアシスタント代表によるマネジメントチームをつくり、コミュニティ生活と活動の細部にわたり、その役割と職責を明瞭にし委ねた。1年後コミュニティを訪問した国際ラルシュ連盟の代表は、アシスタントたちの確かな成長を感じたと語ってくれた。

### 2) ラルシュマイメンシンの広報と認知

アトランタで開催された国際ラルシュ連盟総会への参加は、国際ラルシュ連盟におけるマイメンシンコミュニティのユニークネス（特性）について、広く認知してもらう良い機会となった。国際ラルシュ連盟の招きで、この総会にJOCSの代表者が参加できたことは、双方にとって実りをもたらすものであった。数年毎に開催されるラルシュイスラムミーティングに、マイメンシンコミュニティからイスラム教徒のアシスタントが招かれたことも特筆すべきことであった。

### 3) コミュニティの将来計画とその実施

コミュニティの三つの家のうちの一つで、女性たちが暮らすプシュポニール（花の家）の賃貸契約が2015年末で終了（更新不可）することを受けて、コミュニティ全体で将来計画について検討した。コミュニティの組織状況を分析し、今後の目標や方向性、そしてその目標達成のための具体的



コミュニティのピクニック

## 2. 海外諸活動

な戦略などについて話し合う3日間のワークショップを、理事の進行のもと2度開いた。これを受けて構成された土地建物購入委員会を中心に、コミュニティの将来の土地探し及び必要な予算の申請を始めた。

### 4) レインボウチーム（成人デイケアプログラム）の開始

重い知的な障がいを持つメンバーの成長に伴い、彼らのニーズに合った成人のためのデイケアプログラムをつくる必要があった。話し合いを重ねながら、3年をかけてコミュニティの全体のプログラム構成を漸次変え、オーストラリアから専門家の短期支援を受け、7人の障がいをもつメンバーが6人のアシスタントの支援を受け9月に開始した。

### 5) コミュニティの増改築

アシスタントコーディネーターのオフィスルームを造り、子どもたちのデイケアルームを一つ増やすことは、今年度の覚え書き（マニフェスト）の優先課題であった。この工事の完了により、5年をかけて漸次行ってきたコミュニティに必要な増改築は、ほぼ完了した。

## （4） バングラデシュ短期ワーカー 乾真理子（医師）

派遣先：カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト（KHCP – Kailakuri Health Care Project）

派遣期間：2012年4月24日～8月5日、10月4日～12月19日

タンガイルにあるKHCPで2期（3.5ヵ月+2.5ヵ月）活動した。KHCPは「貧しい人たちに、貧しい人たちの手で医療サービスを届ける」ことを目的とした独特のプロジェクト

<https://sites.google.com/site/kailakurihealth/>。

パラメディック  
paramedic（資格はないが医師兼看護師の役割を果たす）が診療し、地域の貧しい人たちに最低限の基礎的医療を提供している。更なる検査や手術が必要な場合はプロジェクトの負担で他院へ依頼。あらゆる種類の患者さんが来る。医師は私を含めて2名。私の主な活動は、paramedicスタッフに対する診療面での後方支援。



パラメディックの研修会

### 1) 「入院部門」での活動：

- ①入院患者は35名前後で、4グループに分けてある（集中治療、糖尿病、栄養、一般）。各グループを順に回るよう自分の「週間予定表」を作成、朝の申し送り後、各グループのその日の担当 paramedic と一緒に患者さんを診察、診断・治療の相談にのった。
- ②入院患者は入れ替わりが激しい。どうしても重症～緊急患者優先になり、一見重症ではない患者さんが後回しになる。なるべく詰め所においてその日の担当 paramedic から

情報を聞き、気になれば自分で診察した。必要があれば責任者のペイカー医師に報告・相談（とくに外科・産科関係）。

- ③入院患者の medicine chart（患者個人の投薬表）のチェック：入院患者は medicine chart を作り、その日の薬係が薬合わせをするが、時には不要な薬が漫然と投与されていることもある。夕方の申し送り後、全員の medicine chart をチェックした。鎮痛剤、抗菌薬など使い過ぎかと思うこともあり、疑問点は話し合った。
  - ④入院部門詰所内の整理整頓。
  - ⑤検査関係：試験紙による尿検査の施行・指導。グラム染色（細菌染色）の実施。他院依頼検査の検体搬送方法の指導。
  - ⑥症例相談：判断に困る症例はメールで日本の専門家に相談、結果を治療方針決定に役立てた。
- 2) KHCP と外部をつなぐ：国内外からの訪問客の接待やプロジェクト宣伝のお手伝い。この活動は、バングラデシュ人による支援グループの結成につながった。支援グループの目的は、KHCP の支援と共に、『『貧しい人たちによる貧しい人たちのための医療サービス』というカイラクリ・モデルを広める』こと。
- 3) Kailakuri Medical Dictionary の編集：カルテ記載には（KHCP 独特の）ベンガル語を使う。その読み書きのために作り始めた「英語－日本語－ベンガル語の単語集＋薬のリスト」を編集。今後 KHCP で活動する外国人医療スタッフにも役立ててもらおう予定。
- 4) 情報発信：ブログ <http://marylin25.blog115.fc2.com/> で活動内容を紹介。KHCP の患者さんやスタッフの思いを外部の人たちに伝えた。

#### （5） バングラデシュ短期ワーカー 石本馨（作業療法士、社会福祉士）

派遣先：SMSM Sisters Bangladesh

派遣期間：2012年6月27日～9月25日

##### 1) 活動内容

派遣先が3ヵ所で開催する障がい児者への支援活動に参加し、運動訓練・遊びや身辺介助・手工芸等を、各拠点の児童やスタッフの特性に合わせて実施した。各所での活動内容を以下に述べる。

- ① Tejkunipara：通所施設。10代の知的・聴覚言語障がい児が多く、ほか数人が運動障がい・自閉症を有している。ここでは従来行われていた読み書き中心のプログラムに加え、就労支援目的の作業活動を提案、試しに裁縫とビーズジュエリー作りを実施した。
- ② Nayanagor：学齢期までの障がい児が母親と共に通所。



訓練を受ける子ども

## 2. 海外諸活動

スタッフは山内ワーカーから指導された訓練を個別に実施しており、母親はスタッフに任せきりであった。私はスタッフへの訓練指導と、母親を活動に巻き込むことを目的にグループワークを実施した。

- ③ **Islampur : Missionary of Charity** が運営する入所施設の障がい孤児が対象。スタッフが各児童に合わせて介助・訓練していた。ここではスタッフと共に身辺介助と運動機能訓練を実施した。
- ④ スタッフとの関係：スタッフと共に活動し、私のやり方がスタッフの目に触れるように心がけた。また、障がい児支援の現場を見たいというスタッフの希望により、山内・岩本両ワーカーの活動拠点にスタッフ 2 名とともに訪問し、ワークショップ・山内ワーカーの訓練・デイケアプログラムに参加した。

### 2) 成果

- ① **Tejkunipara** : 裁縫とビーズジュエリーは大半の児童が興味を持ち、介助を要しながらも作ることができた。成果物は家に持ち帰ってもらったほか、クリスマス等のイベントで販売され、児童の自信にもつながった。
- ② **Nayanogor** : スタッフの訓練方法は概ね良好。また、グループワークは子ども・スタッフ・母親いずれにも好評だった。しかし、スタッフだけで実施できるには至っていない。
- ③ **Islampur** : スタッフとともに運動機能訓練・食事や遊びの介助を継続したところ、変化が見られた。特に無表情だった子どもが笑顔を見せ、周囲の人の声や玩具に反応したことにスタッフは驚き、重度障がいの子でも関わり次第で変化することを実感した様子だった。
- ④ スタッフの変化：各児童に合わせた関わり方で潜在能力が開花されることを理解した様子だった。私に訓練方法を尋ねる、自らマイメンシンのスタッフと情報交換する等の変化も見られた。

## (6) タンザニア・シニアワーカー 倉辻忠俊（医師）

派遣先：タボラ大司教区保健事務所、イプリ・ヘルスセンター

タンザニア・タボラでの保健医療活動が 2 年目に入った。タボラ大司教区保健事務所での保健医療管理とイプリヘルスセンターでの診療協力および指導である。また、保健省および州保健局と連絡を密にし、官民連携、協同を促進した。教会および住民との交わりに努めた。日本の所属教会とは隔週の「タボラ通信」により恵みを共有した。

### 1) 主活動

- ①保健事務所：週 3 日、保健医療政策の実践および指導を行った。傘下 11 施設の保健医療サービスの記録集計と分析、現場視察監視を 4 半期毎に行い、討議・評価の上で具体

的指導を行った。特に州の保健予算の獲得利用、州職員の人事交流に力を入れた。また診療記録分析および生活スタイル（農業牧畜）から必要性の高い「人獣共通感染症」のセミナーを実施した。各施設から1～2名参加し、それぞれは自分の施設に戻って伝達講習を行い、知識・技術の共有と普及に努めた。

②イプリ・ヘルスセンター：週3日、外来、分娩室、小児病棟での診療協力および指導を行った。特に婦人の栄養、安全なお産、新生児ケア、感染症に力を入れた。また周産期医療と保健衛生教育に関しては月1回3箇所へ移動診療を実施し、安全なお産と健康な小児の普及に努めた。その結果、年間100前後だったヘルスセンターでのお産は2012年には1,000件を越え、「安全なお産環境」



診療する倉辻ワーカー

は整いつつある。また出生児の周産期死亡も1,000出生対60から25に、低出生体重児は15～20%から5%以下に減少した。疾病構造は乳幼児ではマラリアを始めとする感染症が未だに50%を越え、栄養障害、熱傷も多い。成人でもマラリアが1位であるが、慢性拘束性肺障害や糖尿病も増えつつある。これらの診断、治療、予防につき、准医師、医師補を対象に週2回クリニカルカンファレンスを実施し、また患者の診方、記録の仕方を補助者対象に週1回実施した。分娩記録を電子化し毎月集計、リアルタイムに分析し現場にフィードバックした。

## 2) その他の活動

①国際標準化に関して州保健局、保健省、国際機関と討議、協力した。

②日本大使館草の根無償資金協力による施設増改築のフォローと報告に協力した。

## 3) その他

活動費は情報収集、医療監視旅行の車両整備・燃料、セミナーに使用した。今後の発展のために活動と医療分析評価考察を年報にまとめ、各施設および州・郡保健局に配布した。任期終了し12月末日に帰国した。

## (7) タンザニア短期ワーカー 宮尾陽一（医師）

派遣先：タボラ大司教区

派遣期間：2013年2月2日～3月2日

短期ワーカーとして5回目となるタンザニア訪問は、2月2日に出発し3月2日に帰国といつもよりやや短い滞在となった。外科医および麻酔科医として現地での人的支援を求められているが、自ら手術をおこ



超音波検査の指導をする宮尾ワーカー

## 2. 海外諸活動

なうだけでなく現地の医師に技術指導をおこない手術の方法を伝授すること、そして一緒に治療を組み立て、治療に対する考え方を交流させることが目的である。期間中に集められた患者さん達を診察して症状に応じ超音波検査をおこない、必要と判断した手術を現地の准医師（正式の医師より短い期間で得られる資格）と一緒にこなう。特に現地の医師が手掛けることの少ない甲状腺腫瘍摘出の手術が期待されている。首周りの手術は、血管や神経に特別な注意を要するので現地の医師には敬遠される傾向にあるからだ。甲状腺以外にも多様な治療への関与が必要だ。医師の数、とくに外科医は足りないので専門分化する余裕は無く、一人ではほとんどの科の手術をおこなう。今回も腸の手術、子宮摘出などの婦人科の手術、帝王切開など産科の手術、口の中の腫瘍の手術など多岐にわたっていた。合計で34件の手術に携わり、甲状腺腫瘍10件、その他の腫瘍5件、腸閉そく3件、腹膜炎2件、帝王切開は8件あった。中には、生まれつき脊椎が分かれている奇形の新生児を生まれたその日に麻酔看護師を説得しておこない助けた例があった。周りが生存をあきらめていただけに感謝されたケースであった。

今回はいつも交代で来ていたオランダ人医師が引き揚げ、外国人は私だけとなった。そのため彼らが担当していた産科の仕事が私に回ってくるようになった。妊娠の有無やその状態、胎児の成熟度や安否や位置異常、羊水の量のチェック、時には性別の判断を求められることもあったので、彼ら自身で出来るよう超音波検査の手技を全員に講義した。

前回に続いて甲状腺手術を執刀させた現地の准医師は手術に自信を深めたようであった。もうひとつ大切な使命と感じているのは、医療の在り方への働きかけだ。衛生環境への配慮や患者への尊厳を尊重することを身をもって示すことである。手術前の祈りは定着した感があり、患者への気配りも少しずつは変化している。そうした変化を一緒に作ってゆくため、現地スタッフを納得させる心のこもった信頼性の高い医療を提供する必要があると感じている。

活動を支えてくださっている皆様の祈りと支援が確実に現地を変える力となっていることをお伝えしたい。

### (8) パキスタン・ワーカー 青木盛（医師）

派遣先：聖ラファエル病院（St. Raphael's Hospital）

#### 1) St. Raphael's Hospital（聖ラファエル病院）での業務

##### ① 外来診察

- ・月曜から土曜、1日3時間程。その他時間外の診察。
- ・多い疾患は肺炎、気管支炎、下痢、皮膚病、脳性麻痺など。

##### ② 小児の入院

- ・月数名（肺炎、下痢等）

##### ③ 新生児室



新生児を診る青木ワーカー

- ・1日3回の回診と病的新生児の治療を行った。

	分娩数	経膾分娩	帝王切開	他院へ紹介した新生児数	院内死亡した新生児数	人工呼吸器を使用した新生児数
2012年	1717	787	930(54%)	22	25	23

#### 人工呼吸器を使用した新生児の転帰

	生存	死亡	他院紹介	
IMV	0	1	0	1
N-CPAP	18	2	1	21
N-CPAP + IMV	0	1	0	1
	18	4	1	23

IMV：間歇的強制換気　　N-CPAP：経鼻持続陽圧換気

- ・2012年度の後半は看護スタッフの減少などの理由により、人工呼吸器が必要な新生児は他院へ送るようにした。
  - ・死亡原因は早産児（特に在胎28週未満）、超低出生体重児、新生児仮死、呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、敗血症、先天異常など。
- 2) プロジェクト費
- ・新生児室に閉鎖式保育器を4台購入した。その他新生児室の酸素配管工事などに使用した。
- 3) 学生の講義
- ・2012年度から学生への講義を始めた。
    - 「出生後の肺の生理的変化」
    - 「新生児の代表的な呼吸器疾患」
    - 「新生児の蘇生法」

#### [2-2] 研修生・奨学金支援

2012年度に支援した奨学生は、インドネシア11名、ネパール22名、バングラデシュ7名、インド5名、ウガンダ26名、タンザニア16名の合計87名である。詳細は2012年度研修生一覧（14～19ページ）を参照。

2012年8月に、タンザニアで奨学生のフォローアップを行った。タボラ大司教区が管轄

## 2. 海外諸活動

する 11 の保健医療施設を訪問し、これまでに承認された 26 名の奨学生の状況を確認した。そのうち 4 名とは直接面談をすることができた。

この他、スタディツアーや職員の出張の機会を利用して、インドとバングラデシュでもフォローアップを行った。



## インドネシア

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Frits Lexi Meincker Mojjai	男	24	学生	GKST	SAM Ratulangi University	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Mr. Panca D Dese	男	45	看護師	GKST	STIK Indonesia, Central Jaya, Palu	看護学修士	2011年9月 ~ 2014年8月
Mr. Mardianus Tado'u	男	26	薬局スタッフ	GKST	Samratulangi University, Manado	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Ms. Ferderika Amtiran	女	31	看護師	GKST	STIK Indonesia, Institute of Medical Science	看護学	2012年10月 ~ 2013年9月
Ms. Aprilin Poakalose	女	29	看護師	GKST	STIFA Pelita Mas, Palu	薬学	2011年6月 ~ 2015年8月
Ms. Yuliana Najaya	女	26	看護師	GKST	Stikes Husada Mandiri, Poso	助産学	2011年6月 ~ 2014年9月
Mr. Jappy Roby Waladow	男	40	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Ms. Ariane Englin Repi	女	40	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Ms. Ervinna Annyta Lontaan	女	38	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Ms. Menny Lolowang	女	32	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Ms. Katrina Nono	女	33	薬局スタッフ	IC/AHS Lindimara Hospital	Politeknik Kesehatan Kupang	薬学	2010年6月 ~ 2013年5月

## ネパール

Dr. Min Bahadur Thapa	男	41	医師	Anandaban Hospital	Kathmandu University	放射線診療	2010年9月 ~ 2013年8月
Mr. Jaganath Maharjan	男	41	理学療法士 助手	Anandaban Hospital	Doon Paramedical College and Hospital	理学療法	2010年7月 ~ 2015年1月
Ms. Jayanti Kumari Niroula	女	39	看護師	Anandaban Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学	2011年11月 ~ 2013年10月

2. 海外諸活動

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Lila Kumari Khadka	女	25	看護師	Anandaban Hospital	Nagarik College of Health Science	看護学修士	2012年12月 ~ 2015年10月
Mr. Chandra Giri	男	42	薬局スタッフ	HDCS Chaurjahari Hospital	Kailpal Health Institution	薬学	2011年9月 ~ 2014年8月
Mr. Dil Bahadur Giri	男	32	事務	HDCS	National Open College	ヘルスケアマネージャー ト修士	2012年3月 ~ 2013年3月
Mr. Kapil Prasad Jaisi	男	40	事務	HDCS Chaurjahari Hospital	National Open College	ヘルスケアマネージャー ト修士	2011年11月 ~ 2012年10月
Mr. Tilak Bahadur Kumar	男	33	地域保健・ 公衆衛生	HDCS Chaurjahari Hospital	Kaipal Health Academy, Nepalgunj Bank Nepal	公衆衛生	2010年7月 ~ 2013年10月
Dr. Kaleb Kumar Budha	男	29	医師	HDCS Chaurjahari Hospital	National Academy of Medical Sciences	小児医学	2011年9月 ~ 2014年9月
Mr. Amar Singh Bahat	男	25	検査技師助 手	HDCS TEAM Hospital	Kalitpur Institution of Health Science	放射線学	2010年9月 ~ 2012年8月
Mr. David Thagunna	男	29	検査技師	HDCS TEAM Hospital	Bharatpur School of Health Sciences	臨床検査	2009年11月 ~ 2012年10月
Ms. Karna Rai	女	31	看護師	HDCS TEAM Hospital	Yeti Health Science Academy	看護学	2011年2月 ~ 2013年1月
Ms. Kalpana Silwal	女	33	看護教師	Lalitpur Nursing Campus	Tribhuvan University, Institute of Medicine	婦人科看護	2010年2月 ~ 2012年12月
Ms. Vivechana Shakya	女	35	教師	Lalitpur Nursing Campus	Faran College of Nursing, Bangalore, India	小児看護修士	2012年7月 ~ 2014年6月
Ms. Ratna Kumari Maharjan	女	43	看護師	Patan Hospital	Lalitpur Nursing Campus	看護学修士	2010年7月 ~ 2012年6月
Ms. Apsara Gurung	女	25	准看護師	Tansen Nursing School	Hope International College	看護学	2011年1月 ~ 2012年12月
Ms. Monima Chaudhary	女	24	教師	Tikapur Christiya Mandali Church	Nepalgunj Nursing Campus	看護学	2009年12月 ~ 2012年11月
Ms. Asha Rawal	女	18	看護師	Tikapur Christiya Mandali Church	Far-West Technical College	看護学	2010年9月 ~ 2013年8月
Mr. Ankit Raj Gurung	男	23	学生	UMN	Nepalgunj Medical College	医学	2009年8月 ~ 2013年2月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Tilak Raj Khanal	男	43	検査技師	UMN Tansen Mission Hospital	Chitwan School of Medical Science	医用画像工学	2012年9月 ～ 2016年8月
Ms. Bimala Khatri	女	43	准助産師	UMN Tansen Mission Hospital	Tansen Nursing School	看護師	2010年9月 ～ 2013年8月
Ms. Kumari Maya Thapa Magar	女	46	助産師	UMN Tansen Mission Hospital	Tansen Nursing School	看護師	2009年10月 ～ 2012年9月

## バングラデシュ

Mr. Hembrom Isahak	男	20	無職	St. Vincent Hospital	Bangladesh Health Professions Institute (BHPI) CRP	理学療法	2012年1月 ～ 2014年12月
Mr. Marma Bijoy	男	46	地域保健・公衆衛生	CHC	Atish Dipankar University	公衆衛生修士	2012年1月 ～ 2013年7月
Ms. Khanam Monira	女	35	その他	CHC	Center for Disability Development	障がい者支援	2012年9月 ～ 2012年10月
Ms. Barua Priyanka	女	19	無職	Mahamuni Bidhaba	Christian Hospital Chandraghona	看護師	2012年1月 ～ 2015年7月
Ms. Chanpa Das	女	21	無職	Mahamuni Bidhaba	Christian Hospital Chandraghona	看護師	2010年1月 ～ 2013年1月
Ms. Mormu Silvia	女	24	修道女	PIME Sisters	Red Crescent Nursing Institute	助産師	2011年2月 ～ 2012年8月
Ms. Tripura Maria	女	22	修道女	PIME Sisters	Green Life Medical College	看護師	2011年2月 ～ 2014年2月

## インド

Mr. David Livingstone J.	男	20	無職	Christian Fellowship Hospital	C.S.I. College of Dental Science and Research	歯学	2009年9月 ～ 2015年2月
Mr. Joshua Paul	男	20	学生	Christian Fellowship Hospital	Christian Medical College, Vellore	臨床検査学	2010年7月 ～ 2014年7月
Ms. Karthika N.	女	19	学生	Christian Fellowship Hospital	Christian Medical College	医学	2011年7月 ～ 2016年1月
Ms. Mariammal Andavan	女	19	学生	Christian Fellowship Hospital	Sankaralingam Bhuvanawari College of Pharmacy	薬学	2010年7月 ～ 2012年7月

2. 海外諸活動

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Sathiya Priya Muniandi	女	20	無職	Christian Fellowship Hospital	Sarah Nursing College	看護学	2009年9月 ~ 2013年9月
ウガンダ							
Mr. Kawooya Patrick	男	30	検査技師	Reach Out	Mbarara University of Science and Technology	検査技師	2011年8月 ~ 2013年8月
Ms. Keronyai Pauline Picho	女	32	看護師	Reach Out	Aga Khan University Uganda	看護学	2009年8月 ~ 2012年2月
Mr. Achuma Richard	男	27	検査技師	UPMB Amudat Hospital	Mbale School of Hygiene	健康教育	2012年1月 ~ 2013年1月
Ms. Atuheire Catherine Allen	女	36	准助産師	UPMB Bwindi Community Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産師	2012年5月 ~ 2013年11月
Ms. Kyomugisha Brenda	女	26	薬局スタッフ	UPMB Bwindi Community Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	看護師	2011年5月 ~ 2012年11月
Ms. Komukama Annet Sanyu	女	35	看護師	UPMB COU, Kisiizi Hospita 1	Health Tutors' College Mulago	看護学教員	2010年10月 ~ 2012年10月
Mr. Obaku Jackson	男	27	その他	UPMB Kei Health Centre, Here is life	Kampala Internatonal University	医学士	2012年9月 ~ 2018年6月
Mr. Syaipuma Moreshe	男	26	看護助手	UPMB Kinyamaseke Health Centre III	Kagando School of Nursing and Midwifery	准看護師	2011年5月 ~ 2013年11月
Mr. Bukenya Stephen Ojwang	男	25	学生	UPMB Kitgum Diocese	Gulu University	医学	2012年9月 ~ 2014年9月
Mr. Mabira Kenneth	男	38	看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Paramedics	麻酔学	2012年5月 ~ 2014年11月
Mr. Okurut Fred	男	29	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護師	2012年5月 ~ 2013年11月
Ms. Bazira Nakato Rebecca	女	36	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護師	2013年5月 ~ 2016年5月
Ms. Immaculate Prosperia Naggulu	女	40	看護教師	UPMB Kiwoko Hospital	International Health Science University	看護学	2009年9月 ~ 2012年9月
Ms. Yiga Rehemah	女	38	看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2011年5月 ~ 2012年11月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Angolikin Hellen	女	33	准助産師	UPMB Kumi Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産師	2011年5月 ～ 2012年11月
Ms. Maraka Lucy	女	37	准助産師	UPMB Kumi Hospital	Jinja School of Nursing and Midwifery	助産師	2011年5月 ～ 2012年11月
Mr. Lubaaale Robert Musasizi	男	27	検査技師助手	UPMB Lugazi Mission HC	Worldwide University College	HIV/AIDSカウンセリング・検査	2010年9月 ～ 2012年9月
Ms. Nanyanzi Eunice Rebecca	女	32	助産師	UPMB Mengo Hospital	Mulago Paramedical School	麻酔学	2012年8月 ～ 2014年8月
Ms. Nantongo Resty	女	31	看護師	UPMB Mengo School of Nursing	International Health Sciences University	看護学	2012年8月 ～ 2015年8月
Mr. Muyanja Andrew	男	26	検査技師	UPMB Nateete Archdeaconry Mobile Clinic	Mbarara University of Science and Technology	検査技師	2010年8月 ～ 2012年8月
Mr. Odoch Wilfred	男	28	看護師	UPMB Nebbi Church of Uganda Diocese	Mulago Paramedical School	麻酔学	2010年9月 ～ 2012年9月
Mr. Arinaitwe Edson	男	29	検査技師助手	UPMB Ruharo Mission Hospital	Mbarara Medical Laboratory Training School	検査技師	2011年6月 ～ 2013年6月
Mr. Gideon Bwambale	男	33	看護師	UPMB Rwesande Health Center IV	Kagando School of Nursing and Midwifery	准看護師	2010年5月 ～ 2013年5月
Mr. Kabugho Phedrace	男	26	看護助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kagando School of Nursing and Midwifery	准看護師	2010年5月 ～ 2012年11月
Ms. Kighina Mbambu Alice	女	32	検査技師助手	UPMB South Rwenzori Diocese	Kasese Institute of Health Science	検査技師	2010年6月 ～ 2012年6月
Ms. Kiisa Juliet	女	28	准看護師	UPMB South Rwenzori diocese PHC Programme Kinyamaseke Health Center III	Kagando School of Nursing	看護師	2011年5月 ～ 2012年11月

タンザニア

Ms. Bertha John Makoye	女	23	看護助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2010年9月 ～ 2013年9月
Mr. Paschal Peter Mashimi	男	24	検査技師助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2011年8月 ～ 2014年8月
Ms. Rozalia Constantino Buholo	女	23	看護助手	AOT Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2011年8月 ～ 2014年8月

2. 海外諸活動

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Francis Fortune Tegete	男	26	学生	AOT Iputi Health Centre	Hubert Kairuki Memorial University	医学	2010年9月 ~ 2013年9月
Ms. Therezia Joseph Migezo	女	40	看護助手	AOT Iputi Health Centre	Nkinga School of Nursing	看護師	2011年8月 ~ 2014年8月
Ms. Agnes Michael Sylvester	女	20	看護助手	AOT Kaliua Health Centre	Sumve Nurses and Midwives Training School	看護師・助産師	2011年9月 ~ 2013年9月
Ms. Gaudencia Fredrick	女	30	検査技師助手	AOT Kaliua Health Centre	Catholic University of Health and Allied Science	検査技師	2011年10月 ~ 2014年10月
Sr. M. Magreth Peter Nyamizi	女	30	看護助手	AOT Kipalapala Dispensary	Dareda Nursing Training School	看護師・助産師	2009年9月 ~ 2012年9月
Ms. Hadija Yassin Mrisho	女	23	看護助手	AOT Kipalapala Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2011年8月 ~ 2014年8月
Ms. Devotha Tiho Mayombya	女	23	看護助手	AOT Lububu Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2010年9月 ~ 2013年9月
Ms. Sophia Charles Malale	女	30	看護助手	AOT Lububu Dispensary	Kabanga School of Nursing	看護師・助産師	2011年9月 ~ 2014年9月
Sr. Nyanzobe Christina Mathias	女	33	診療所受付・庶務	AOT Mwanzugi Dispensary	Kolandoto Nurse Midwife Training Centre	看護師・助産師	2009年9月 ~ 2012年9月
Mr. Dunstan Salu Mabala	男	31	事務	AOT Mwanzugi Dispensary	Bugando Medical Centre	臨床検査技師	2011年8月 ~ 2012年4月
Sr. Christina Njendela Mapunda	女	31	学生・シスター	AOT Ndala Hospital	Hubert Kairuki Memorial University	医学	2009年9月 ~ 2012年9月
Ms. Liberator Kabura	女	27	学生	AOT Ndala Hospital	Edgar Maranta School of Nursing	看護師	2009年9月 ~ 2012年9月
Ms. Maria Simon Mnimbo	女	24	看護助手	AOT Ndala Hospital	Kolandoto School of Nursing	看護師・助産師	2010年8月 ~ 2014年8月

### [2-3] 協働プロジェクト (プロジェクト・りとる)

(Project “LITTLE” = “Living together with the People”)

#### (1) BDP (Basic Development Partners) 学校保健教育プロジェクト (バングラデシュ)

今年度は 2010 年度より開始されたバングラデシュの学校保健教育プロジェクトの 3 年目にあたる。

今年度は計画どおり、学校での保健教育の授業を 1～3 年生で開始した。4～5 年生の授業開始は今年度実施できず、来年度から実施する。4～5 年生の授業開始が遅れた理由は、カリキュラムと教材作成に予想以上の時間がかかったためである。

ほか、保健教育担当教員向けトレーニング (2013 年 2 月 24～27 日、28 人が参加、カリキュラムに基づくトレーニング)、思春期女子への講習 (2012 年 6 月 17 日、19 日、5 年生 92 人が参加)、身体測定・健康診断 (2012 年 6 月 18 日、20～21 日、3 校 603 人が受診) を実施した。計画していた母親向け講習会は、保護者向けワークショップとして開催 (2012 年 9 月 13 日、17 日、22 日、236 人が参加)、ヘルスフェスティバルはゴミゼロデイとして開催 (2012 年 5 月 24～30 日、10 校が参加) した。



ストレッチのトレーニングを受ける保健教育担当教員

#### (2) 新規

新規の協働プロジェクトを開始するため、カンボジアでの実現可能性調査をした。

### 3. 国内諸活動

#### [3-1] 国内活動全般

##### (1) 子どもを対象にした活動

昨年度、青山学院初等部で実施した子ども向けのワークショップを今年は内容を変えて実施し、さらに横浜共立学園中学校高等学校でもワークショップ開催の協力を得ることができた。

##### ① 青山学院初等部 宗教プロジェクト (5・6年生) 対象 20名

昨年の「健康」をテーマにしたワークショップに引き続き、「いのち」をテーマに考える機会をもった。

1回目は、自分の「いのち」の始まりについて、現在の自分から、誕生した時の自分まで、さらに父母の生命の始まりからたどり、自分の「いのち」はいかに多くの「いのち」と連なっているかを考えた。それにより、自分は選ばれた「いのち」であることを知り、誕生に対する感謝や誇りについて考える機会をもった。

2回目：宮川ワーカーの話聞き、日本とバングラデシュの保健医療事情を学び、同じ「いのち」の価値であるはずなのに何が違うのか、バングラデシュにおける医療環境を考え、自分たちができることを考える機会をもった。

##### ② 横浜共立学園中学校高等学校 YWCA 対象 20名

「健康」をキーワードにしたワークショップを2回にわたって開催した。

1回目は導入として倉辻ワーカーからタンザニアの保健医療事情の話聞き、途上国が抱える保健医療問題を把握することを目的とした。

2回目はタンザニアと日本の保健医療データを比較し、健康を守るために必要なこと、現在自分たちに出来ること、将来したいことを共に考える機会をもった。

##### (2) ワーカー活動報告会

2名のワーカーが活動を終えて帰国し、活動地の保健医療の現状、活動の成果、人々の暮らしなどについて報告した。主な訪問先は、学校や教会、保健医療施設、市民団体などであった。

##### ・バングラデシュ派遣

宮川真一ワーカー：10月19日～3月25日 計98回

##### ・タンザニア派遣

倉辻忠俊ワーカー：1月13日～3月31日 計24回

##### (3) 地区 JOCS 活動

ー仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・四国高知 (播州・岡山・大曲)

2012年度中に開催された地区 JOCS イベントは以下のとおり。



仙台 JOCS		参加
7/4～8/11	写真展開催(日本基督教団東北教区センター エマオ)	-
7/29	地球フェスタに出展 (仙台国際センター)	-
2/9	倉辻ワーカー報告会	14名
足利 JOCS		
12/8	足利市民クリスマス (足利市民プラザ小ホール)	140名
1/20	宮川ワーカー報告会 (足利市生涯学習センター)	18名
3/10	倉辻ワーカー報告会 (足利市生涯学習センター)	10名
町田 JOCS		
12/15	クリスマス会 宮川ワーカー報告会 (インターネット放送)	8名
京都 JOCS		
4/14	チャリティウォークソン (京都鴨川河川敷)	30名
7/28	チャリティコンサート (京都コンサートホール)	320名
2/24	倉辻ワーカー報告会 (河原町カトリック会館)	18名
大阪 JOCS		
6/2	大阪 JOCS カフェ 諏訪恵子氏のお話 (大阪聖パウロ教会)	8名
10/20	大阪 JOCS カフェ 船戸正久氏のお話 (大阪聖パウロ教会)	8名
3/1	大阪 JOCS カフェ 倉辻ワーカー報告会 (大阪聖パウロ教会)	27名
3/2	倉辻ワーカー報告会 (大阪聖パウロ教会)	20名
神戸 JOCS		
2/23	倉辻ワーカー報告会 (日本基督教団兵庫教会)	33名
芦屋 JOCS		
2/17	宮川ワーカー報告会 (芦屋川教会)	84名
四国高知 JOCS		
10/7～10/8	高知スタンプショウに出店 (高知イオン)	-
11/25	宮川ワーカー報告会 (高知教会)	40名

## (4) チャリティー講演会

『人を育てる 未来をつくる 日野原重明 101歳』

日時：2013年3月23日(土) 14:00～

場所：豊島公会堂

講師：日野原重明氏

来場者数：312名

### 3. 国内諸活動

当日募金：345,800 円

目的：日野原氏よりご自身と JOCS の関わりについてお話しをしていただき、奨学金事業への募金を呼びかけていただいた。また、これまでの人生経験から、何歳になっても夢をもって新しいことに挑戦すること、人のために何かをする喜びなどが語られた。その後、JOCS50 周年記念 DVD「カシナマジユパン」を上映した。参加者の奨学金への理解が深まり、多額のご寄付をいただくことができた。

#### [3-2] ワーカー育成プログラム

##### (1) 海外保健医療協力セミナー

日程：2012 年 12 月 15 日（土）～16 日（日）

場所：横浜市中区寿地区

テーマ：横浜寿地区で活動する保健医療従事者・宗教者をたずねて  
草の根の人々と働く姿勢を学ぶ 2 日間

訪問先：なか伝道所、神奈川教区寿地区センター、ことぶき共同診療所、訪問看護ステーションコスモス寿、寿アルク

スタッフ：森田隆（海外担当主事）、高橋淳子（担当）

参加費：社会人 12,000 円、学生 10,000 円（JOCS 会員は 1,000 円割引）

参加者：7 名（女性 5 名、男性 2 名）

【会社員 2 名、薬学生 1 名、医師 1 名、看護師 1 名、病院事務 1 名、その他 1 名】

【会員 3 名、会員以外 4 名】

プログラム概要：

- ①寿地区の概要を学ぶ
- ②訪問看護ステーションコスモス訪問
- ③ことぶき共同診療所訪問
- ④寿アルク訪問
- ⑤夜まわり
- ⑥簡易宿泊施設（ドヤ）宿泊
- ⑦礼拝
- ⑧宮川ワーカー講演

##### (2) 海外保健医療勉強会

今年度は感染症をテーマとし、5 回の勉強会を開催した。うち 2 回は帰国ワーカーを講師として、1 回はフィールドでの一日勉強会として多磨全生園で開催した。

勉強の機会の提供のみならず、参加者同士の交流の場ともなり、また、参加者に JOCS とのつながりを持ち続けてもらう場ともなった。

第1回

日 時：2012年6月22日（金）18：30～20：30

場 所：JOCS 東京事務局

参加者：合計19名（女性19名、男性0名）

【看護師9、看護学生3、NPO/NGO スタッフ2、医師・保健師・理学療法士・歯科衛生士・会社員各1】

【JOCS 会員1、非会員18名】

題 名：小さくされた人々の感染症－Neglected Tropical Diseases（NTD）

講 師：小島莊明（医師、JOCS 会長）

内 容：NTD は国連ミレニアム開発目標（MDGs）の第6の目標として、HIV/AIDS、マラリアに加えた「その他の疾病の蔓延防止」という形で取り上げられている。本勉強会では、このような世界の動きについて紹介するとともに、住血吸虫症やフィラリア症、土壌媒介線虫症など NTD の代表例である HIV/AIDS、マラリア、結核の三大感染症について紹介した。また、学校保健教育を基盤とする NTD 制圧への挑戦について話し、子どもたちへの保健教育に取り組んでいる JOCS の活動についても触れた。

第2回

日 時：2012年10月12日（金）18：30～20：30

場 所：JOCS 東京事務局

参加者：合計13名（女性11名、男性2名）

【学生4、NGO スタッフ3、教員2、医師・看護師・養護教諭・無職各1】

【JOCS 会員1、非会員12名】

題 名：ハンセン病

講 師：畑野研太郎（医師、JOCS 常務理事）

内 容：以下の点についてスライドを用いて述べた。①ハンセン病の原因や特徴、治療法について、②日本でのハンセン病をとりまく環境について、③世界のハンセン病コントロールについて

第3回

日 時：2012年11月30日（金）18：30～20：30

場 所：JOCS 東京事務局

参加者：合計11名（女性7名、男性4名）

【学生2、会社員2、看護師2、医師・歯科医・看護教諭・NGO スタッフ・栄養士各1】

【JOCS 会員3、非会員8名】

題 名：感染症 バングラデシュの病院での実例から

講 師：宮川眞一（医師、JOCS バングラデシュワーカー）

### 3. 国内諸活動

内 容：以下の点についてスライドを用いて述べた。①チャンドラゴーナ・キリスト教病院（CHC）での自身の役割について、②CHC で多く見られた病気とその特徴について、③CHC の地域保健プロジェクトについて、④CHC で見られたマラリアの状況について

#### 第4回

フィールド勉強会

日 時：2013年2月24日（日）9：30～16：30

場 所：多磨全生園

参加者：合計15名（女性12名、男性3名）

【会社員4、NGO職員3、看護師2、養護教諭2、その他4】

【JOCS会員6、非会員9名】

内 容：多磨全生園内の秋津教会の礼拝に出席後、国立ハンセン病資料館でガイダンスビデオ観賞、語り部である回復者の方のお話、展示見学を行った。最後に分かち合いの時をもち、参加者間で学びを共有した。

#### 第5回

日 時：2013年3月8日（金）18：30～20：30

場 所：JOCS 東京事務局

参加者：合計7名（女性5名、男性2名）

【医師・看護師・助産師・看護助手・臨床検査技師・為替トレーダー（元JOCV）・医学生各1】

【JOCS会員2、非会員5名】

題 名：感染症 タンザニアの病院での実例から

講 師：倉辻忠俊（医師、JOCS タンザニアワーカー）

内 容：以下の点についてスライドを用いて述べた。①タンザニアの概要と国の保健衛生状況、②タンザニアに見られる感染症（溶連菌感染症、慢性閉塞性肺疾患、消化器感染症、人獣共通感染症（Zoonosis）、ブルセラ症、トキソプラズマ症等）、③蚊が媒介する感染症、④予防接種  
その後質疑応答が行われ、タンザニアの予防接種や母子手帳、治療のスタンダードや保険などについて活発な応答がなされた。

#### (3) 南インド・スタディツアー

日程：2012年7月28日（土）～8月6日（月）（10日間）

訪問地：クリスチャン・フェローシップ病院（CFH）（南インド タミルナードゥ州オダンチャトラム）

参加者：7名（医師1名、看護師1名、看護学生2名、大学教員1名、理学療法士2名）

引 率：森田隆（海外担当主事）、大久保奈緒（職員）

内 容：現地では CFH の外来や病棟見学の他、CFH の関連施設であるエイズホスピス、ボーイズホーム、CFH スタッフが地域の学校を訪問して行う保健教育プログラムなどの見学を行った。インドの保健医療事情を自分の目で見て学び、インドの医療現場に携わる人々の熱意を感じることは、参加者一人ひとりのこれからの人生にとって大切な経験になっただろう。これから国内外で働く参加者に広い視野を持った保健医療従事者に育ってほしい。

### 【3－3】 東日本大震災被災者支援

2012 年度も引き続き東日本大震災被災者支援活動を行った。

#### （1）宮城県仙台市

##### 被災者支援センタースタッフ雇用サポート

（協力先：東北教区センター・エマオ）

昨年度から引き続き、被災者支援を行っている日本基督教団東北教区被災者支援センターを支えるために、東北教区センター・エマオのスタッフ（仙台 JOCS メンバー）の人件費をサポートした。

被災者支援センターでは、仙台市若林区で被災家屋の修復や交流イベントの企画を、石巻市では仮設住宅の被災者ケアや交流イベントの企画、在宅被災者への支援などを行った。詳細は公式ブログサイト <http://amba.to/tohokuuccjwo> をご覧いただきたい。

#### （2）岩手県釜石

##### 看護師チームの派遣

引き続き看護師チームを岩手県釜石に派遣し、仮設住宅や孤立集落の訪問ケア活動（傾聴や血圧測定、健康相談など）、被災者の交流施設の運営補助などを行った。チームの受け入れはカリタス釜石（カトリック釜石教会）の協力による。5月、7月、9月、12月、2月に約1週間ずつ実施し、延べ21人の看護師を派遣した。



看護師チームの訪問ケア

##### カウンセラー派遣

昨年に引き続きカウンセラーを派遣し、教会および仮設住宅での傾聴活動やカウンセリング、ボランティア向けの傾聴講座、コミュニケーションスキル講座、祈りの会開催などを行った。毎月、震災のあった日である 11 日の前後に数日間訪問した。

#### （3）福島県

### 3. 国内諸活動

#### ①いわき市仮設住宅健康相談

いわき市社会福祉協議会の要請により、いわき市仮設住宅集会所（いわき市中央台高久第一集会所）に月2回医師及び保健師を派遣し、健康相談を実施した。仮設住宅は189戸で、148世帯、378人の被災者の方が居住している。JOCSの健康相談は、毎月第2・第4金曜日の午後に行い、血圧測定や個別の健康相談を行った。

#### ②いわき市支援スタッフ心理的ケア支援

いわき市で被災者支援活動を行っている「特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会」いわき事務所スタッフの心理的ケアを支援した。スタッフ及びボランティアの傾聴研修、いわき明星大学心理相談センターでのスタッフ心理的ケア、スタッフの本部研修実施に協力した。

#### ③福島県内児童養護施設

「特定非営利活動法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」と連携して活動している。福島県内の児童養護施設に入所している子どもたちの健康状態を把握し、放射能による健康被害の早期発見と早期治療を行うための活動を支援した。

##### 個人被ばく線量測定サービス（クイックセルバッチ）着用支援

福島市の「青葉学園」及び「福島愛育園」で、入所している子ども及び職員の着用を支援した。

##### 超音波診断装置による甲状腺検査支援

甲状腺の異変の早期発見・早期治療に役立てることを目的に、児童養護施設に医療従事者を派遣し、検査を実施した。「福島愛育園」及び「いわき育英舎（いわき市）」で、入所後も住民票を施設に異動できないために公的な検査の通知が来ない子どもを中心に検査した。

##### 食品放射能測定室設置支援

「福島愛育園」及び「堀川愛生園（東白川郡）」への食品放射能測定室設置を支援した。毎食の検査や周辺農家から寄付のあった農作物を検査することにより、子どもたちの内部被ばく低減に役立っている。

#### <被災者支援募金報告>

募金総額：18,311,236円

（2010年度 70,000円、2011年度 12,153,111円、2012年度 6,088,125円）

2012年度末までに使用した金額の内訳は、以下のとおりである。

(単位：円)

活動地	2011年度	2012年度	合計
宮城県仙台市	877,760	960,000	1,838,360
岩手県釜石市	1,588,740	1,900,595	3,489,335
福島県いわき市	55,290	945,745	1,001,035
福島県内児童養護施設	987,000	2,554,614	3,541,614
その他	80,749	277,071	357,820
合計	3,589,539	6,638,625	10,228,164

残額 8,083,072 円は、2013 年度以降の活動に使用する。

### [3-4] 広報

#### (1) 会報「みんなで生きる」

- ・2012 年度は 7 回発行 (7,100～7,800 部/回)。A4 版・16 または 20 ページで編集し、会員・寄付者・一般へ送付した。隔月発行とし、10・11 月号と 12・1 月号の間に「子ども号」を発行した。
- ・毎号行っているアンケートも参考にしながら委員会で誌面作りを検討し、編集した。
- ・「子ども号」の表・裏表紙は、今年度もカラー印刷にした。他の頁は 2 色刷りにした。特集は「JOCS の被災地支援活動～被災地での活動を通して、今みなさんに伝えたいこと～」。その他に全ワーカーからの手紙やワーカー派遣国の紹介を載せた。
- ・12・1 月号の表紙はクリスマス号でもあるので、カラー印刷にした。
- ・「みんなで生きる」の特集は、
  - 4・5 月号 インタビュー バングラデシュでの活動を振り返って...岩本直美ワーカー
  - 6・7 月号 第 51 回 JOCS 定時社員総会報告・募金報告
  - 8・9 月号 JOCS 活動国の社会情勢～ワーカー派遣国～
  - 10・11 月号 JOCS 活動国の社会情勢～JOCS 奨学生のいる国～
  - 子ども号 JOCS の被災地支援活動～被災地での活動を通して、今みなさんに伝えたいこと～
  - 12・1 月号 ワーカーからのクリスマスメッセージ
  - 2・3 月号 誌上報告会 バングラデシュの病院から...宮川真一ワーカーであった。

連載は、小島会長の巻頭言、恭子ディディの視点から (4・5 月号まで)、JOCS と私、ワーカーからの手紙、切手部通信、Kids JOCS、ときのことば、総主事デスクから。

その他は、4・5 月号に東日本大震災被災者支援活動報告と「JOCS 切手の日」に来たお便り、6・7 月号にバングラデシュスタディツアー報告、8・9 月号に「みんなで生きる」表紙写真展・絵本原画展報告、12・1 月号に青山学院初等部でのワークショップ報

### 3. 国内諸活動

告と南インドスタディ・ツアー報告。また、「読者の声」と「JOCS 質問箱」欄を新設して、読者との繋がりを強める工夫をした。ホームページの案内も随時掲載した。

#### (2) ホームページ

2012 年度は、ホームページに会員専用ページを新設し、会報「みんなで生きる」をホームページ上から閲覧できるようにした。また、募金や各種会費をオンライン上で送金できるシステムを再整備した。その他、微細なレイアウトや画像類の更新を行った。

#### (3) 視聴覚資料

DVD の貸出依頼が 19 件あった。

貸出依頼のうち、6 件は保護観察所であった。全国の保護観察所で使用済み切手運動が社会貢献活動に採用されるようになってきており、そのための導入として、DVD の利用問合せが増えてきている。

現在、JOCS における貸出可能な視聴覚資料は下記の通りである。貸出可能な DVD においては、すべて You Tube のサイトに掲載し、ホームページから視聴ができるようにした。

インドネシアの元奨学生が地域医療に取り組む姿を紹介した、50 周年記念 DVD 「カシナマジパン」が、ITVA－日本（国際企業映像協会）コンテスト 2012 において、社外コミュニケーション部門で「銀賞」を受賞した。

#### <DVD/VHS>

- ・ 50 周年記念 DVD 「カシナマジパン」 / 「心をひらいて」 (DVD のみ)
- ・ 日本のお友達へ
- ・ アジアの呼び声に応えて
- ・ エイズと向き合う
- ・ クメールの人々とともに
- ・ 使用済み切手でアジアに医療協力を
- ・ 日本のお友だちへ
- ・ はるかなるネパールの村へ
- ・ オカルドゥンガ診療所にて
- ・ 世界の屋根のヒゲ・ドクター
- ・ ノーレンの目が見えた
- ・ ヒマラヤの結核キャラバン

#### <写真パネル>

- ・ ワーカーの活動地
- ・ 「みんなで生きる」表紙

#### <ホームページからダウンロード>

- ・ 使用済み切手運動紙芝居



## (4) 出版物・マスコミへの掲載（付録参照）

- ・ 2012年10月23日発行：盛岡タイムズ
- ・ 2012年11月1日発行：日本クリスチャンアカデミー会報「はなしあい」
- ・ 2012年12月28日発行：愛媛新聞
- ・ 2013年2月9日発行：福島民友新聞

## (5) 広報改革タスク

事務局担当3名、広報委員を兼任する理事1名（平本実氏）の新規メンバーのもとで3回タスクを開催した。事務局の意見を主体として進め、平本理事がタスクで出た意見や方向を理事会に共有する方針で進めた。これまでの会員アンケートなどの課題分析を振り返り、支援者、潜在的支援者のニーズという視点で、次年度の広報につなげるため主に以下の3点を協議し、関連のある委員会、広報委員会、財務委員会へ提案をした。

- ・ より一層の利用促進が見込まれるホームページ更新のための予算をとること。
- ・ 広報と広告の協議の違い：広告（キリスト教誌掲載広告）の意義。
- ・ 上記に力を注ぐために、広報を予算化する必要性。

## 【3-5】 募金

今年度の募金協力件数は以下のとおりである。

2012年度	依頼数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	15,634件	2,381件	15.0%	約1,815万円
冬期募金	19,397件	6,000件	30.9%	約6,338万円
その他の募金	—	—	—	約731万円
東日本大震災被災地支援指定	—	—	—	約609万円
総計	—	—	—	約9,493万円

今年度も、東日本大震災の被災地支援のための指定寄付が集まった。

夏期募金は例年通り「みんなで生きる」6・7月号に募金趣意書と払込用紙を封入する方法をとり、払込票に入会申し込み欄を設けた。冬期募金においても、会員募集の旨を掲載したところ、夏・冬期募金をきっかけに会員へと移行した寄付者が86名あった。また冬期募金の趣意書を新規切手協力者3,540名に発送し、そのうち新規の会員申込みが4名、募金協力が103名あった。

### 3. 国内諸活動

#### [3-6] 使用済み切手運動

2012年度の切手受託累計と事業収益は、昨年度と比較し以下のとおりであった。

	2011年度	2012年度
使用済み切手受託件数	18,303件	16,706件
〃 受託量(Kg)	12,990Kg	12,300Kg
〃 事業収益	1,996万円	2,058万円

使用済み切手の受託は、この数年は横ばい状態であるが、外国コイン類や書き損じはがきなどの収入増加もあり、実質的な使用済み切手換金額は少しずつ増加して来た。

今年度は、東京事務局で14名、関西事務局で53名のボランティアの方々が切手整理作業を手伝ってくださった。皆様のご協力に深く感謝申し上げたい。

#### 切手タスク 2012年度活動報告

2012年度は、使用済み切手運動を広める目的で、以下のイベントを開催した。

##### ①切手まつり 千葉県富里市：若草児童館

日時：2012年8月2日（木）13：00～15：00

場所：千葉県富里市 若草児童館

対象：学童保育参加児童 小学校1～5年生50名

プログラム：

使用済み切手運動紙芝居、切手クイズ、DVD鑑賞、切手チョコチョコキ体験など

##### ②第4回国際協力切手まつり「使用済み切手から始まるあなたのボランティア」

日時：2013年2月22日（金）午後1時～24日（日）午後3時まで

場所：JR防府駅前 アスピラート（防府市地域交流センター）

プログラム：

パネル展示、諏訪恵子氏（JOCS元カンボジア派遣ワーカー）のお話、切手クイズ、切手チョコチョコキ体験など

#### [3-7] JOCS 関西バザー

5月12日（土）に第18回JOCS関西バザーを大阪聖パウロ教会にて開催した。「切手を持ってバザーに行こう」というキャッチフレーズが定着し、今回は使用済み切手が17.5キロ集まった。また当日の来場者は約380名、当日ボランティアは59名、収益は約131万円となった。

### 【3-8】 講師派遣プログラム

JOCSの活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。帰国中のワーカーが報告会として対応をしたものを含め、申込みのあった以下の諸団体（28団体）に講師を派遣した。

2012年

4月：東北学院高等学校

6月：福良キリスト教会、町田市立薬師中学校、聖イグナチオ教会 海外医療援助切手グループ、明治学院東村山中学校、明治学院東村山高等学校

7月：桃山学院大学国際教養学部

8月：社会福祉法人 牧の園 若草児童館、函南町「みんなで考える平和展」実行委員会、法務省宇都宮保護観察所

9月：日本クリスチャンアカデミー 関東活動センター

10月：賛育会後援会、関西学院倶楽部、青山学院、青山学院初等部、明治学院

11月：熊本YMCA、フェリス女学院中学・高等学校

12月：日本基督教団河内松原教会、恵泉女学園中学・高等学校、同仁美登里幼稚園

2013年

1月：土浦めぐみ教会付属マナ愛児園、横浜共立学園YWCA

2月：聖学院中学・高等学校、日本基督教団番町教会、法務所前橋保護観察所

3月：日本基督教団経堂緑岡教会、国際ロータリー第2670、2680地区RYLA委員会

### 【3-9】 事務局見学受入

JOCSの活動内容や使用済み切手運動について、実際に事務局を訪問し、学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れを行っている。今年度は、学校や教会など、計13団体の訪問があった。

<東京事務局> (11団体90名)

盛岡市立黒石野中学校、青山学院初等部宗教プロジェクト、捜真女学校YWCA、恵泉女学園中学校、溝のロキリスト教会広報伝道部取材班、香蘭女学院バザー委員会、茨城県立土浦第一高等学校、東京文理学院、JANIC NGO キャリアインターン、YMCA 東京日本語学校

<関西事務局> (2団体38名)

富山市立西部中学校、大阪西ロータアクトクラブ（\*2回訪問）

### 【3-10】 50周年記念事業

(1) 創立50周年記念誌

JOCS50周年記念誌は、数年の制作過程を経て2012年5月に完成(1,000部)し、JOCS

### 3. 国内諸活動

の社員会員、現・元役員、現・元ワーカー、他関係者、また関係教会・学校・諸団体などに配布をした。

主な内容は下記のとおりである。JOCSの歴史を検証し、活動とその使命、直面してきた諸課題、そして今後の展望などについて、様々な角度から見つめるよい機会が与えられた。刊行にあたりご苦勞いただいた編集委員会をはじめ、すべての執筆者、ご協力いただいた方々に、心から深く感謝申し上げる。

#### <JOCS50周年記念誌の主な内容>

##### 第Ⅰ部：総論

1章：私たちはなぜ平和を求めるのか～JOCS創立50周年記念誌に寄せて

2章：国際協力、草分けとしてのJOCS～故塩月賢太郎氏の論考から

##### 第Ⅱ部：JOCSの歩み～80年代半ばから2010年に至るまで

1章：海外での保健医療協力（計4節）

2章：プログラムの多様化（計4節）

3章：事業と組織（計5節）

##### 第Ⅲ部：資料編

1章：過去25年における世界の保健医療問題、そして援助の変化

2章：共に歩んだ方からのメッセージ（計4節）

3章：インタビュー編（計2節／佐藤智氏・川原啓美氏）

JOCS年表（1938年～2010年）

#### 50周年記念誌編集委員会

小澤英輔（委員長）、田村光三（監修）、阿部淳子（編集スタッフ）、  
市川邦雄（コイノニア社）、大江 浩（事務局）

#### (2) 「みんなで生きる」表紙写真展及び「1ルピーの贈りもの」絵本原画展

- 2012年7月14日（土）～8月11日（土） 日本基督教団東北教区センター  
「エマオ」ギャラリー（仙台） 来場者数 約1,000人
- 2012年10月15日（月）～10月28日（日） クロステラス盛岡（盛岡）  
来場者数 約500人

#### [3-11] ネットワーク活動

現在、「国際協力NGOセンター（JANIC）」「関西NGO協議会」「障害分野NGO連絡会（JANNET）」「カンボジア市民フォーラム」に加入している。関西NGO協議会では理事として運営に携わった。カンボジア市民フォーラムでは、世話人として運営の一端を担うほか、2カ月に1回のセミナー開催への協力やニュースレターの執筆をした。JANNETで

は、担当職員が監事に就任し、運営に携わった。

また、国際協力を主たる事業とする公益法人の情報交換ネットワーク「公益法人 NGO 連絡会」(JANIC 正会員ワーキンググループ) のメンバーとして、3 ヶ月に 1 回開催される会議に出席し、公益法人の健全な組織運営のための情報及び経験の共有等を行っている。

## 4. 運営会議

### [4-1] 第 51 回定時社員総会

2012 年 5 月 19 日 (土) 午後 1 時より、東京都新宿区の早稲田奉仕園リバティホールにて、52 名の社員の出席と 246 通の委任状、14 通の書面表決を以って開催した。議事に先立ち、仙台青年学生センターのジェフリー・メンセンディーク主事より「神の創造～イエスの祈り」と題して奨励をいただいた。その後、2011 年度事業報告が行われ、議事である 2011 年度決算報告、理事及び監事の選任が承認・決議された。また議案審議の終了後には、2012 年度事業計画と収支予算、東日本大震災被災者支援活動についての報告がなされ、続けて、任期を終了し帰国していた岩本直美ワーカーより帰国挨拶と活動報告がなされた。

### [4-2] 理事会

定例理事会は、以下の日程、場所で開催した。

2012 年	4 月 21 日	東京事務局
	5 月 19 日	早稲田奉仕園
	6 月 23 日	東京事務局
	7 月 21 日	東京事務局
	10 月 13 日	東京事務局
	12 月 1 日	東京事務局
2013 年	1 月 19 日	東京事務局
	2 月 16 日	東京事務局
	3 月 16 日	東京事務局

臨時理事会を、以下の日程、場所で開催した。

2012 年	9 月 22 日	東京事務局
--------	----------	-------

なお、今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

小島 莊明 (会長)	畑野 研太郎 (常務理事)	植松 功 (理事)
大江 浩 (理事・総主事)	大友 宣 (理事)	
川口 恭子 (理事・海外担当主事)	(2012 年 7 月 31 日退任)	

#### 4. 運営会議

高梨愛子（理事）	仁科晴弘（理事）	平本実（理事）
渡部芳彦（理事）		
小澤英輔（監事）	辻本嘉助（監事）	

#### 【4-3】 運営協議会

本年度は年末に海外保健医療協力者会議（通称：ネクステ会議）を開催して長期的な運営方針の協議の場にあてため、運営協議会の開催を見送った。

#### 【4-4】 委員会

##### （1）関西地区活動委員会

委員長：船戸正久

委員：宇山進、大谷透、彼谷廣子、加輪上敏彦、酒井照子、島田恒、高谷泰市、  
畑野めぐみ、榛木恵子 和田浩

陪席者：辻本嘉助（監事）、中村満子（神戸 JOCS）

- 1) 隔月に開催している委員会では、各地区 JOCS の活動報告、募金報告、バザー、関西 JOCS のつどいに関する協議・反省などを行った。
- 2) 特に「関西 JOCS2012」として、2012 年 10 月 27 日に開催した宮川眞一バンングラデシュ派遣ワーカーの活動報告会と女性コーラスグループ「プティ・タ・プティ」のミニコンサートを日本キリスト改革派神港教会で開催した。当日は 73 名の参加者があった。
- 3) 毎年恒例の関西 JOCS バザーは、2012 年 5 月 12 日（土）に大阪聖パウロ教会を借用して開催し、昨年同様ボランティアの方々のよき協力のおかげで入場者約 380 名、純利益 1,409,149 円の内 10 万円を次回バザーの準備金とし、残金を JOCS 本部へ寄付した。

##### （2）奨学金委員会

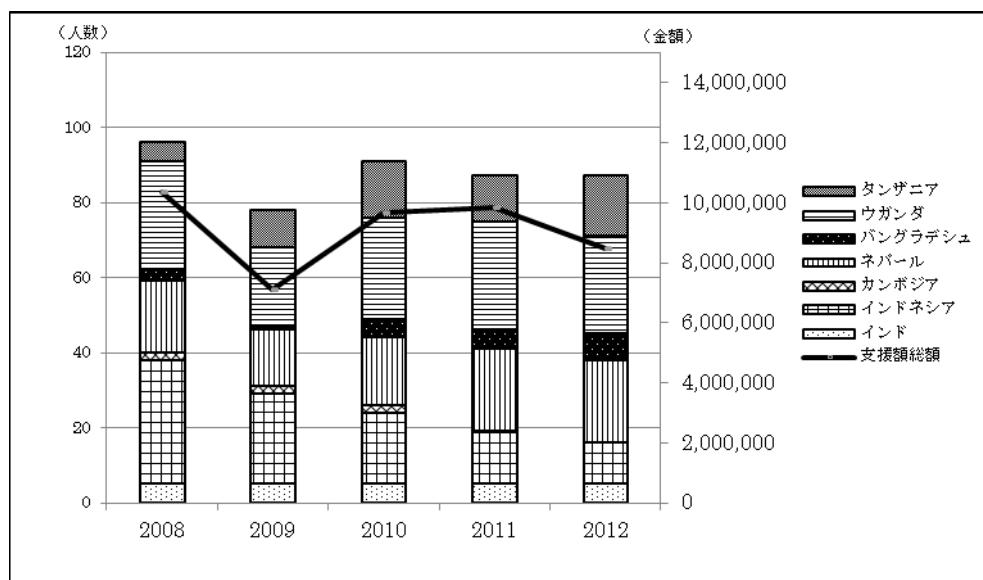
委員長：柳澤理子

委員：小宅泰郎、諏訪恵子、細谷たき子、宮崎雅、山崎眞由美

## 1) 2012 年度奨学金選考結果

対象国	2012 年度後期		2013 年度前期		支給決定者合計
	希望者数	支給決定者数	希望者数	支給決定者数	
インド	3	1	0	0	1
インドネシア	9	5	1	1	6
ネパール	9	4	8	3	7
バングラデシュ	2	2	0	0	2
ウガンダ	34	10	0	0	10
タンザニア	9	3	7	3	6
合計	66	25	16	7	32

## 2) 過去 5 年間の奨学生数と給付額の推移



## 3) その他

今年度は、選考回数や委員会での協議内容、奨学生選考基準の見直しなどについて協議した。その結果、「選考回数を年 1 回とする」「委員会開催は従来通り年 2 回とし、選考を行わない回では奨学金制度についての話し合いやフォローアップ報告などを行う」とし、理事会に建議し承認された。

選考に関しては、2012 年度予算 1,000 万円のうち 7,223,935 円は、前年度までに承認された奨学生への継続支給（研修が複数年に渡るため）であった。従って、2012 年度は 2,776,065 円におさまるように、支給を決定した。

2011 年度 2 回目（2012 年度前期）には応募数が減少し、交通費・生活費の支給をなくしたことの影響かとも思われたが、2012 年度 1 回目（2012 年度後期）には例年通り

#### 4. 運営会議

の数の応募があった。そのため、2012年度前期の応募数の減少は時期的な一時的なものであったと思われる。ただ、フォローアップ出張時の団体責任者からの意見や、海外保健医療協力者会議の事前資料として支給団体に対して行ったアンケートでは、交通費や生活費の支給を望む声が多かった。学費だけでなく交通費や生活費も支給するかどうかは今後の検討課題である。

今年度のフォローアップはタンザニアで行い、奨学生や元奨学生、支給団体の責任者と話し合うことができた。また、スタディツアーや職員の出張の機会を利用して、インドとバングラデシュでもフォローアップを行った。

奨学生の現状を知り広報につなげるための取り組みとして、昨年を引きつづき、奨学生にクリスマスカードを送る際に近況報告をお願いする手紙を添えた。するとインドネシアやネパール、バングラデシュ、ウガンダ、タンザニアから返信があり、なかには写真が添えられたものもあった。さっそくその一部を支援者向けの広報ツールに使用した。今後も同様の働きかけを続け、会報等を通じて会員・寄付者の方々にも奨学生からの声を発信していく。

#### (3) 広報委員会

委員長：宇山進

委員：大村竜夫、柏木牧子、須賀真弓、那須野幸子、平本実

2ヵ月に1回のペースで、6回のミーティングを開催した。

##### 1) 「みんなで生きる」

今年度は7回発行（うち子ども号1回）。7,100～7,800部/月。詳細は[3-4] 広報（1）会報「みんなで生きる」（29ページ）参照。

##### 2) 「JOCS フォーラム」

2012年5月19日に第28号（全68ページ）を発行し、社員総会時に配布した。内容は、ワーカー活動報告（青木盛ワーカー、諏訪恵子ワーカー、山内章子ワーカー）、短期ワーカー報告（宮尾陽一ワーカー、乾真理子ワーカー）および海外保健医療勉強会の講演原稿であった。

##### 3) 募金趣意書

夏期は、「みんなで生きる」6・7月号に趣意書と寄付金控除に関する説明書を挟み込み、会員・寄付者に送付した。また、冬期は、俳優の竹下景子さんに書いていただいたメッセージを掲載し、11月より一斉発送した。

##### 4) ボランティアテック

ミーティングを2回開催した（6月、12月）。「みんなで生きる」表紙展・絵本原画展を仙台・盛岡で開催した。

##### 5) ホームページの活動

詳細は、[3-4] 広報（2）「ホームページ」（30ページ）参照。



## (4) 国内活動委員会

委員長：北澤 肯

委員：新井ななえ、金井和夫、羽山直人、原口裕紀子、真鍋まり

2002年には6,600人いた会員・寄付者も2011年には4,500人になり、また会員の多数が60代、70代の年代であり、JOCSは今後10年の活動存続が大きく危ぶまれている。これを受け、国内活動委員会は、諮問内容である「会員増強・寄付拡大のためのプログラム企画、実施」というテーマで、現状分析・課題発見のブレインストーミングを始めた。しかしながら、出てきた対策が人事や予算またJOCS全体の組織構造に及び、一委員会としての活動や責任の範囲を超えていることが分かった。対策には、ファンドマネージャーや広報ディレクターの雇用（もしくはその機能を事務局に作る）、広報活動を今までの様にバラバラにするのではなく、「みんなで生きる」やネットでの発信、講師派遣、様々なイベントを一つの責任主体が統括して戦略的に行う、などがあった。

よって、2回目の委員会開催後に理事会に対して「活動の範囲」と「実行主体、責任主体」を問うた。その結果、諮問内容が「会員増強・寄付拡大のための企画、提案」に変更され、委員会の目的は基本的には「会員増強・寄付拡大のための企画・立案」になり、その実施の責任主体は理事会ということが確認された。

第3回の委員会では、ブレインストーミングから出てきたいくつかの課題、トピックを掘り下げ、そして①インターネット、メディア、②イベント、ツアー、③ネットワーク作り（教会関係、友の会関係、医療関係、学校関係）の3つに絞り、委員会を3つのグループに分けて、それぞれアクションプラン案を作るところまでが決定された。

## (5) 財務委員会

委員長：畑野研太郎

委員：安藤淑子、佐藤光、中畠裕一

毎回の委員会で事務局から、財務状況や募金状況の報告を受け、財政運営が適正に行われていることを確認している。JOCSの財政状況を正しく把握したうえで、健全かつ安定した財政運営への提言を理事会に対して行った。年度後半には決算見込みを確認の上、次年度予算案を精査し、会長に提出した。また、会員や支援者獲得についても財務の立場から検討し、事務局に提言を行った。

通常の議事の他、協議を行い、理事会に提案・報告したことがらの主なものは以下のとおりである。

- ・公益目的事業会計と法人会計の会費按分率変更
- ・ワーカー給与計算方法見直し
- ・公益目的保有財産に係る諸規定「災害救援復興資金規程」「海外保健医療協力資金規程」「奨学資金積立金規程」改定
- ・遺贈パンフレット作成
- ・「関西JOCS資金」「50周年記念事業準備資金」の解消

#### 4. 運営会議

遺贈のパンフレットは、会員の方からの要望を受けて作成した。今後も改良を続けていきたい。また、財務委員会の提言により、2011年度より事務局で高額寄付者へのアンケートを行って委員会で共有している。支援者が JOCS に求めるものは何なのか把握し、活動に活かしていきたい。

JOCS は公益法人格を取得した結果、財務の透明性、健全性を今まで以上に強く求められている。今後も支援者への説明責任を果たし、行政庁への報告を正確に行っていく体制の維持向上に努めていく。

##### (6) ワーカー育成委員会

委員長：植松功

委員：秋田公子、大友宣、黒川瞳、土井直彦、堀越春香

今年度は委員会を 3 回開催し、参加者に合わせ適宜スカイプを利用した。その他メーリングリストを活用して随時協議を行った。

現行のプログラムとして、海外保健医療勉強会、海外保健医療協力セミナー、スタディツアーを企画した（詳細は [3-2] ワーカー育成プログラム (24~27 ページ) を参照)。プログラムは以下のように新しい試みを取り入れた。

- ・ 海外保健医療勉強会：設定した「感染症」というテーマに基づきシリーズ化して開催した。
- ・ 海外保健医療協力セミナー：フィールドで開催し、横浜地区で活動する医療従事者を訪問した。ワーカー講師にはフィールドでの学びに結びつく講演を依頼した。

今後も、海外医療協力に関心のある人がより多く参加できるように多様な機会を提供していきたい。

##### (7) ワーカー派遣委員会

委員長：榛木恵子

委員：長尾真理 宮崎雅

委員会を 2 回開催した。第 1 回委員会において、ワーカー志願者 1 名の面接を行い、面接報告書を理事会に提出した。第 2 回委員会では理事会からの諮問内容について再検討を行った。

2 年間の期間中における委員会としての役割の再確認、具体的な協議内容について検討を行った。

#### [4-5] 海外保健医療協力者会議（ネクステ会議）

第 5 回海外保健医療協力者会議を下記の要領で開催した。今後の JOCS の課題を考え、課題解決のために何をすべきかを話し合った。

会議名通称：ネクステ（Next Step）会議

日時：2012年12月29日（土）～31日（月）2泊3日

場所：マホロバ・マインズ三浦（神奈川県三浦市）

参加者：33名（理事、監事、準備委員、職員、ワーカー、及びゲスト）

協議内容：JOCSの使命、国内活動、クリスチャニティ、保健医療協力活動に関して

プログラム概要：協議、各ワーカーのお話、開会・閉会礼拝、及び主日礼拝

この会議開催に向けて、また振り返りのために実施された準備委員会、及び準備会議は下記のとおりである。

・準備委員会：計11回（2012年4月～2013年1月）

委員長：弓野綾

委員：大友宣、小野梓、金井和夫、黒川瞳、諏訪恵子

担当理事：仁科晴弘

・準備企画会議：9月22日（土・祝）、23日（日）

#### [4-6] 今後5年間の方向性策定

12月末開催の海外保健医療協力会議の協議内容を受け、2013年に開始する新しい「今後5年間の方向性」を実施するための具体的なアクションプランの策定を開始した。

#### [4-7] 評価

##### (1) 活動終了前レビュー

次のワーカーに関し、活動終了前レビューを行った。

・宮川眞一ワーカー（第二期）2012年8月 レビューアー：榛木恵子、森田隆

・倉辻忠俊シニアワーカー2012年10月 レビューアー：森田隆

##### (2) ワーカー自記式アンケート

ワーカー派遣後1年目2年目の終了時に行う自記式アンケートを以下のワーカーに行い、回答を理事会で検討した。

・青木盛ワーカー 1年目 2012年9月

・山内章子ワーカー 1年目 2013年1月

## 5. 事務局

＜総主事 大江 浩＞

2012年度の主な事務局の動きは下記のとおりである。

第1に、4月より第5回海外保健医療協力者会議(ネクステ会議)の準備委員会が発足し、毎月開催の準備委員会の運営、9月の準備会、12月の本会議を下支えする役割を担った。

第2に、ワーカー関連では、今年度下半期の宮川眞一ワーカー(第2期任期終了)と倉辻忠俊ワーカー(シニアワーカー任期終了)の帰国報告会のため、連絡調整と実施を支えた。バングラデシュの学校保健教育は3年目を迎えた。年度途中で海外担当主事が川口氏から森田隆に交代したが、引き続き高橋淳子がパートナー団体と連絡を取り合いつつ、進めている。

第3に、50周年記念事業関連では、JOCS50周年記念誌の発刊、またボランティアテックの方々のご協力により「みんなで生きる」表紙写真&絵本「1ルピーの贈り物」原画展(仙台・盛岡)を実施することができた。

学校へ出向いて行う「子ども向けプログラム(現地活動報告とワークショップ)」は、青山学院初等部に加え、横浜共立学園でも持つことができた。

第4に、会員増強と寄付拡大を目的に、新たにキリスト教雑誌2誌「信徒の友」、「百万人の福音」に年間を通じて広告を掲載した。またご遺産寄付用のパンフレットを作製した。

第5に、東日本大震災への被災者支援は、仙台・釜石・福島の3つの地域での活動を継続しているが、事務局が地元団体と連絡調整を行い、それぞれの活動の調整を担っている。

第6に、JOCSは、いくつかの他団体とのネットワークに加盟している。「カンボジア市民フォーラム」は世話役として、関西NGO協議会は理事として活動した。また障害分野NGO連絡会(JANNET)は監事として、公益法人NGO連絡会(JANICのワーキンググループ)にも協力を行った。

最後に、ワーカーとして、また海外担当主事として20数年にわたりJOCSの海外保健医療協力に尽力した川口恭子氏の定年退職(7月末)に伴い、8月より森田隆(元JOCSカンボジア事務所長)が海外担当主事の任に就いた。3月末に東京事務局の山下諭子(6年間勤務)、また、長年にわたり関西事務局に勤務した久家郁子が退職した。会員・ボランティアの方々のお支えのうちに無事業務を終えることができ、心から感謝申し上げる。

＜スタッフ＞

総主事	大江浩
海外担当主事	川口恭子(～7月)、森田隆(8月～)
東京事務局	名取智子、大久保奈緒、小池宏美、高橋淳子、森田真実子、 山下諭子、山中信
関西事務局	渋江理香、久家郁子、河野智恵

## 6. 社員会員・一般会員の現状報告

2013年3月31日現在

社員会員	424名
一般会員	4,047名
合計	4,471名

### 2012年度中の社員会員、一般会員の異動

#### 1. 社員会員

(1) 新しく社員会員となられた方	4名
(2) 社員会員を辞し、一般会員となられた方	3名
(3) 退会された方	19名

#### 2. 一般会員

(1) 新たに入会された方	219名
(2) 退会された方	307名

## 7. 2012年度の主な動き

### 4月

- 14日 京都 JOCS チャリティウォークソン（鴨川河川敷）
- 15日 岩本直美ワーカー派遣祝福式（大津教会）
- 16日 森田隆職員入局
- 24日 乾眞真理子短期ワーカー、バングラデシュに赴任
- 27-29日 浅草スタンプショウに出店（都立産業貿易センター台東館）

### 5月

- 12日 JOCS 関西バザー（大阪聖パウロ教会）
- 19日 第51回定時社員総会（早稲田奉仕園）
- 20日 岩本直美ワーカー、バングラデシュに赴任
- 26-27日 広島スタンプショウに出店（広島県立産業会館）

### 6月

- 1-10日 岩本直美ワーカー、植松功理事、国際ラルシュ連盟アトランタ大会出席
- 2日 大阪 JOCS カフェ（関西事務局）

## 7. 2012年度の主な動き

- 22日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 24日 芦屋 JOCS のつどい（芦屋山手教会）
- 28日 石本馨短期ワーカー、バングラデシュに赴任

### 7月

- 1日 国際協力切手まつり（大曲ルーテル同胞教会）
- 14-8月11日 「みんなで生きる」表紙写真展&「1ルピーの贈り物」絵本原画展（仙台エマオ）
- 28日 京都 JOCS チャリティコンサート（京都コンサートホール）
- 28-8月6日 南インド・スタディツアー
- 31日 川口恭子海外担当主事退職

### 8月

- 1日 森田隆海外担当主事就任
- 2日 国際協力切手まつり（千葉 若草児童館）
- 5日 乾真理子短期ワーカー、バングラデシュより帰国
- 17-27日 山下諭子職員、奨学生フォローアップのためタンザニア出張
- 28-9月3日 榛木恵子氏、森田隆海外担当主事、宮川眞一ワーカーレビューのためバングラデシュ出張

### 9月

- 25日 石本馨短期ワーカー、バングラデシュより帰国
- 26日 海外保健医療勉強会（早稲田奉仕園）

### 10月

- 4日 宮川眞一ワーカー、バングラデシュより帰国
- 4日 乾真理子短期ワーカー、バングラデシュに赴任
- 6-7日 グローバルフェスタ JAPAN に出展（日比谷公園）
- 7-8日 高知スタンプショウに出店（高知イオン）
- 12日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 15-25日 森田隆海外担当主事、倉辻忠俊ワーカーレビューのため、タンザニア出張
- 15-28日 「みんなで生きる」表紙写真展&「1ルピーの贈り物」絵本原画展（クロスステラス盛岡）
- 20日 大阪 JOCS カフェ（関西事務局）
- 27日 関西 JOCS2012（神戸 神港教会）

11月

- 12-25日 川口恭子氏、学校保健プロジェクト カリキュラム・教材作成のため、バン  
グラデシュ出張
- 25日 四国高知 JOCS のつどい（高知教会）
- 30日 海外保健医療勉強会（東京事務局）

12月

- 8日 足利市民クリスマス（足利市民プラザ）
- 15-16日 海外保健医療協力セミナー（横浜 寿地区）
- 18日 関西事務局ボランティア・クリスマス会
- 19日 倉辻忠俊ワーカー、タンザニアより帰国
- 29-31日 第5回海外保健医療協力者会議（ネクステ会議）（マホロバ・マインズ三浦）

1月

- 25日 東京ボランティア交流会（東京事務局）

2月

- 2日 宮尾陽一短期ワーカー、タンザニアに赴任
- 2-3日 ワンワールドフェスティバルに出展（大阪国際交流センター）
- 17日 芦屋 JOCS のつどい（芦屋川教会）
- 22-24日 山口切手まつり（防府市）
- 23日 神戸 JOCS のつどい（兵庫教会）
- 24日 フィールド勉強会（多磨全生園）

3月

- 1日 大阪 JOCS カフェ（関西事務局）
- 2日 大阪 JOCS のつどい（大阪聖パウロ教会）
- 2日 宮尾陽一短期ワーカー、タンザニアより帰国
- 6日 ITVA-日本（国際企業映像協会）コンテスト 2012 表彰式
- 8日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 11日 東西スタッフ合同ミーティング（東京事務局）
- 23日 日野原重明氏チャリティー講演会（豊島公会堂）